



安全な在宅避難を 可能にする事前対策

-命を守り72時間を生き抜くために-

日本大学 危機管理学部 中林ゼミ

五十嵐 威 石黒 遥夏

大橋 玲奈 尾崎 美憂

久野 愛実 根本 直輝

防災ウォークから得た気づき

- スタンドパイプの位置と使い方
- 防災倉庫におけるの備蓄
- 一時集合所と避難所の違い
- 生活用水のための井戸
- かまどベンチやベンチトイレ
- 防災施設の利用訓練
- 設備の管理や費用負担



下馬中央公園
緊急用井戸・ベンチトイレ



野沢三丁目町会保有
スタンドパイプ



野沢三丁目町会防災倉庫



野沢公園 かまどベンチ

首都直下地震

30年以内に**70%**の確率で発生すると言われている**首都直下地震**

世田谷区では... 直接死者約650人 建物全壊約2.6万棟が予想

地震発生に伴い火災も発生→火災の拡大の防止

ライフラインの停止のリスク→災害関連死発生の可能性

道路の寸断や被害の広域化により支援がすぐに来ない可能性

だからこそ自分で備える「自助」

地域で支えあう「共助」が重要

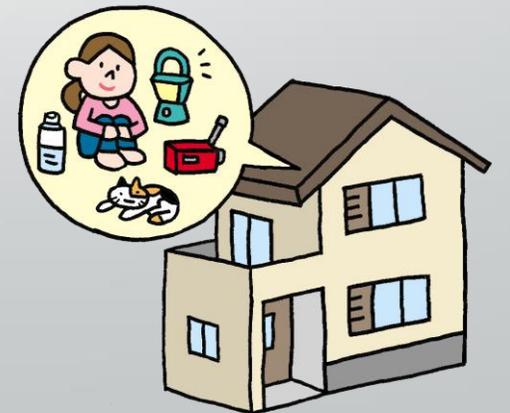
在宅避難の条件

避難所の収容人数は区民全員を収容する能力はないため、**在宅避難が重要。**

在宅避難を実施するにあたっては

- ・ 自宅に大きな被害がなく安全に過ごすことができる。
- ・ 自宅に十分な備蓄品がある。
- ・ 他災害のリスクが比較的低い。

などのポイントから判断する。



在宅避難の事前対策

自宅で安全に避難をするには発災前からの事前準備が必要となる。
在宅避難の条件を満たすためには...

- ・ 自宅の耐震化や家具の固定などによる安全確保
- ・ 自治会や各家庭での生活必需品の備蓄
- ・ ハザードマップの確認



世田谷区の事後対策

自助・共助・公助の理念に基づく復興の推進

世田谷区地域防災計画

- ・ 情報通信の確保
- ・ 時間とともに変化する多様なニーズへの対応
- ・ 避難所等への支援物資の輸送

課題

- ・ 区民等への情報提供体制の整備
- ・ 食料・生活必需品の備蓄や多様なニーズに対応できる調達体制を整備
- ・ 区防災倉庫及び地域内輸送拠点の整備と輸送体制の整備

まとめ

- 自助がうまくいくことで共助が成り立つ→日頃からの備えが大切
- 事前対策をしっかりとすることによって在宅避難が可能になる
- 自分の生活圏内で危ないところをリスト化しておく
→避難する際に危ないところを避けることができる
- 地域と交流を持つことで災害時も円滑な活動が期待できる
- 在宅避難は災害発生時避難所不足を防ぐ鍵となるとともに様々なメリットが存在する→そのためには個人・地域の備えが必要

今後の展望

火災について

- 巨大地震発生後には火災による被害が見込まれていて、世田谷区にも火災リスクの高い区域がある。
→火災による被害想定分析を行い、スタンドパイプを組み込んだ被害拡大防止案の検討を行う。

地域の防災活動について

- 在宅避難に関するアンケートの実施
- 町会単位で行う在宅避難の広報・推進・備え
- 若い世代を活用した地域防災活動の提案



ご清聴ありがとうございました

